

皆伐跡地調査報告書

平成 27 年 2 月

郡上市役所農林水産部林務課

＜目 次＞

1. 調査の目的
2. 調査の概要
3. 調査の結果
4. 調査結果まとめ

■ 特徴的な調査地の紹介

1. 調査の目的

郡上市内の皆伐跡地の植生回復状況を把握するため、調査を実施した。

2. 調査の概要

(1) 調査方法

調査は次の方法により実施した。

① 【選定】

昨年度までに更新未完了の箇所（5 箇所）及び更新完了であったものの、全体的に植生の回復が遅いため様子見が必要な箇所（3 箇所）に加え、平成 25 年度の伐採地のうち、1ha 以上の皆伐地で、造林方法が植栽の箇所（1 箇所）及び天然更新の箇所（1 箇所）の計 10 箇所を選定し調査を行った。

② 【現場調査】

専門知識を有する郡上農林事務所林業普及指導員に同行願い指導のもと現場調査を実施した。

③ 【調査方法】

郡上市森林整備計画に基づき、伐採跡地を見渡し標準的な場所を選定し、2m×10m のプロットを作成、それを A～E の 5 区画（2m×2m）に区分し、それぞれプロット内に生えている木本類の樹種、本数、樹高を測定。伐採跡地の状況からその他の調査項目についても調査し、更新状況を判断した。



④ 【記録】

調査後は箇所ごとに更新調査記録を作成し、写真と共に整理した。

更新調査記録簿

(調査 No.)

基本情報

森林の所在		林小班	
伐採年度		伐採面積	
伐採樹種		更新方法	植栽 ・ 天然更新

現況

崩壊箇所	有 ・ 無
土砂流出危険性	有 ・ 無
植栽木生育	良好 ・ 普通 ・ 悪い ()
ササの侵入	有 (高・中・低) ・ 無
シダ類の侵入	有 (高・中・低) ・ 無
シカ被害	有 (高・中・低) ・ 無
主な競合植物 (樹高)	

更新調査

調査区	2m×10m (内に2m×2mを5プロット設定)		
更新樹種	50cm未満 樹種・樹高		計
	50cm以上 樹種・樹高		計

更新判定・特記事項

立木度	
更新判定	適 ・ 否 ()
特記事項	

調査

調査年月日	平成 年 月 日	調査者名	
-------	----------	------	--

(2) 調査期間

調査期間 平成 26 年 8 月～10 月の 3 ケ月間

調査人数 林務課職員 7 人 郡上農林事務所林業普及指導員 2 人
計 9 人

調査日	調査箇所	調査人数
10 月 20 日	大和町大間見字石原	4
8 月 5 日	大和町栗巢字金山	5
9 月 12 日	白鳥町為真字曾部知	4
9 月 12 日	白鳥町石徹白字上八平	4
9 月 4 日	高鷺町鷺見字鷺ヶ嶽	4
9 月 4 日	高鷺町鷺見字笠屋作、字枇杷谷	4
8 月 29 日	明宝奥住字栃本	4
8 月 29 日	明宝寒水字深谷	4
10 月 23 日	明宝奥住字水沢上	4
10 月 23 日	和良町宮代字沢田平、字尾崎平	4

(3) 調査箇所

市内 5 地域、10 箇所において調査を実施した。

地域	番号	調査箇所	伐採 年度	伐採 面積 (ha)	伐採種 伐採率 (%)	伐採 樹種	伐採 齢
大和	1	大和町大間見字石原	H25	2.99	皆伐 (100)	スギ・ヒノキ・広	50～60
	2	大和町栗巣字金山	H24	10	皆伐 (100)	広・スギ	50・56
白鳥	3	白鳥町為真字曾部地	H24	5.46	皆伐 (100)	スギ・ヒノキ	70
	4	白鳥町石徹白字上八平	H23	3.81	皆伐 (100)	スギ・広 ヒノキ (一部)	50～90
高鷺	5	高鷺町鷺見字鷺ヶ嶽	H7	24	皆伐 (100)	スギ・ヒノキ	—
	6	高鷺町鷺見字笠屋作 字枇杷谷	H24	2.20	皆伐 (100)	スギ	60
明宝	7	明宝奥住字栃本	H22	7.00	皆伐 (100)	スギ・ヒノキ・広	55
	8	明宝寒水字深谷	H24	0.92	皆伐 (100)	スギ	53
	9	明宝奥住字水沢上	H25	4.00	皆伐 (100)	スギ・ヒノキ	45
和良	10	和良町宮代字沢田平 字尾崎平	H21	0.36	皆伐 (100)	スギ・ヒノキ	46・59・ 74

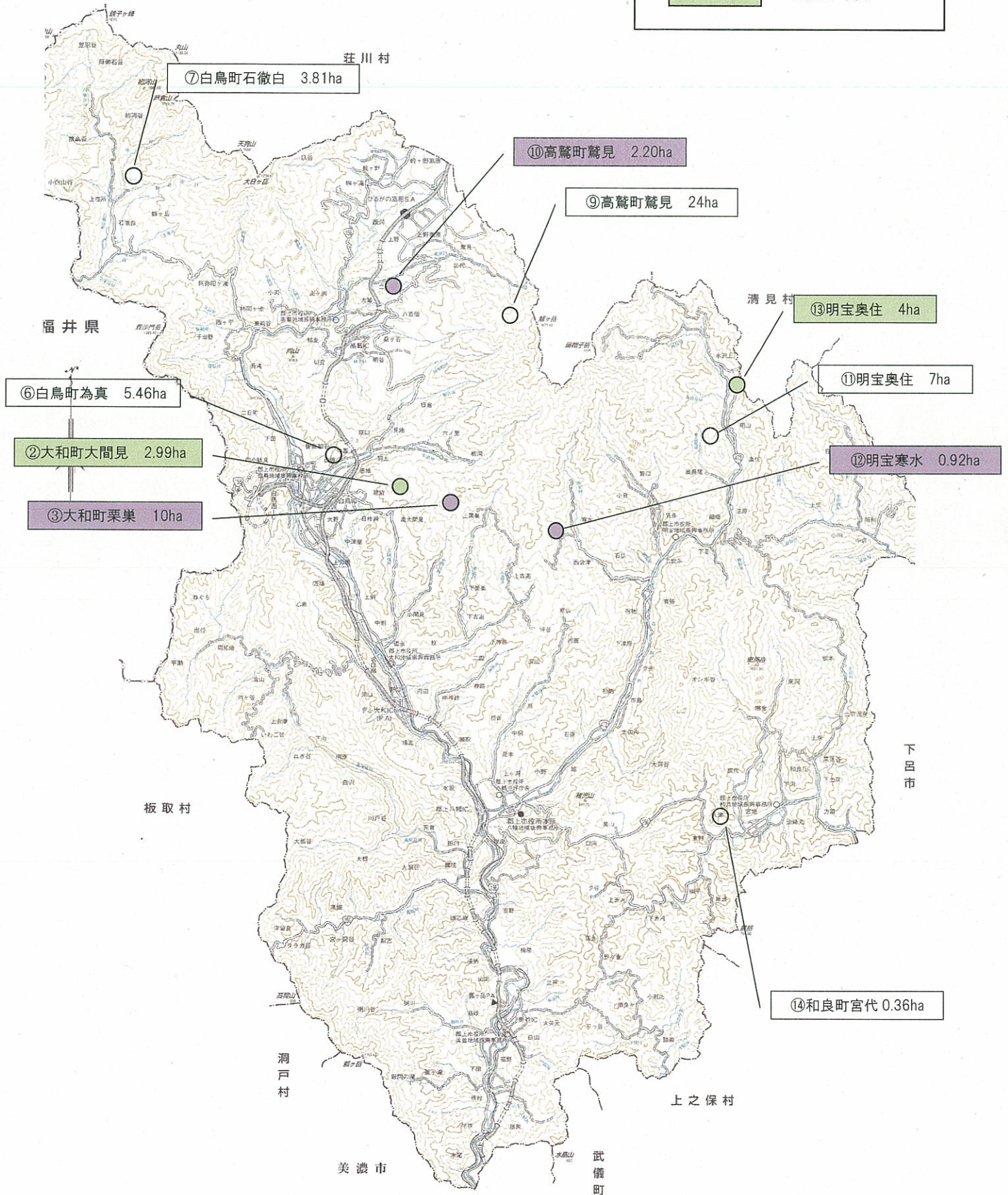
調査個所位置図

皆伐跡地調査実施年度

平成24年度～

平成 25 年度～

平成 26 年度～



1:100,000

3. 調査の結果

伐採跡地の現地調査の結果は、次のとおりである。

H26 皆伐跡地調査一覧

皆伐調査対象森林			伐採届出内容				林況		更新の状況				施業の状況				更新判定											
地域	番号	森林の所在	伐採年度	伐採方法	面積(ha)	伐採樹種	伐採齢	更新方法	確認	傾斜	地質・土壌	林相の 危険性	樹高	土砂流出危険性	周縁樹種	コナラ アカマツ ヒノキ コナラ ウリハダカエデ イロハモミジ	更新樹種(高木)	樹高(cm)	ササ	シダ	シカ	保護樹等	林内整理	土砂防止	その他	立木度	適正 判定	
大和 (2)	新規	大和町大間見字石原	H25	皆伐100%	2.99	スギ・ヒノキ 広葉樹(人)	50～60	天然更新		中	良好	無	700m	無	スギ・ヒノキ 広葉樹	コナラ アカマツ ヒノキ コナラ ウリハダカエデ イロハモミジ	コシアブラ	3～20	無	無	無	無	無	無	無	0	否	
	24	大和町栗葉金山	H24	皆伐100%	10	広葉樹 スギ(天)	50 56	天然更新		緩	良好	無	800m	無	広葉樹	コナラ アカマツ ヒノキ コナラ	無	10～100	無	無	無	無	無	無	無	0.5	否	
白鳥 (2)	9	白鳥町為真曾部和	H24	皆伐100%	5.46	針葉樹 スギ ヒノキ(人)	70	植栽	未	緩	良好	無	575m	無	アカマツ	コナラ アカマツ ヒノキ スギ	無	15～80	無	無	有 (低)	無	無	無	土砂 水	有	0.5	否
高麗町 (2)	15	白鳥町石徹白上八平	H23	皆伐100%	3.81	スギ・広葉樹 ヒノキ(一部 人)	50～90	植栽	未	緩	普通	無	825m	無	スギ	ホノキ サウグルミ アオダモ ブナ	ウミズサクラ	30～175	有 (低)	無	有 (低)	無	無	無	無	無	1	否
	16	高麗町驚見驚ヶ嶺	H7	皆伐100%	24	スギ・ヒノキ(人)	-	天然更新		中	良好	無	1350m	無	スギ コナラ	ウダイカンパ ミズナラ	無	70～220	有 (高)	無	有 (低)	無	無	無	無	無	1	否
明宝 (3)	25	高麗町驚見立屋作 高麗町北肥合	H24	皆伐100%	2.2	スギ(人)	60	天然更新		中	普通	無	800m	無	スギ マツ	ヤマザクラ リョウブ コシアブラ ミズキ	ウミズサクラ	65～450	無	無	無	無	無	無	無	無	2	否
	18	明宝奥住坂本	H22	皆伐100%	7	スギ・ヒノキ 広葉樹(人)	55	植栽	未	中	普通	無	850m	無	スギ 広葉樹	スギ エゴノキ	無	27～280	無	有 (高)	無	無	無	無	無	4	否	
和良 (1)	26	明宝寒水深谷	H24	皆伐100%	0.92	スギ(人)	53	天然更新		緩	良好	無	900m	無	スギ 広葉樹	エゴノキ ハリギリ スギ	無	5～23	無	有 (低)	無	無	無	無	無	0	否	
	新規	明宝奥住水沢上	H25	皆伐100%	4	スギ・ヒノキ(人)	45	植栽	済(カラ マツ)	中	良好	無	850m	無	スギ・ヒノキ 広葉樹	カラマツ	無	10～69	無	無	有 (低)	無	無	無	無	1.5	否	
	22	和良町宮沢田平、尾崎平	H21	皆伐100%	0.36	スギ・ヒノキ(人)	46・59・74	天然更新		緩	普通	無	450m	無	スギ ヒノキ	コナラ スギ	無	8～35	有 (中)	有 (高)	有 (中)	有	無	有	無	0	否	

調査地の森林の種類別

種類	件数
人工林皆伐跡地	9
天然林皆伐跡地	1
計	10

届出時の更新の方法別

補栽	天然更新	不明	計
4	6	0	10

調査後の更新の方法別

全部補栽	一部補栽	未補栽	天然更新	計
1	0	0	9	10

4. 調査結果まとめ

市内 5 地域、10 箇所について、伐採跡地の現況を調査把握し、更新の適否を判定しました。

なお、調査箇所の造林方法は、1 箇所は植栽で 9 箇所は天然更新でした。その結果を下表にまとめました。

区分	個所数		更新完了		未更新		未更新の原因
6 年以上経過	1	植 0 天 1	0	植 0 天 0	1	植 0 天 1	・笹の繁茂により、更新が遅れている。
2～5 年経過	7	植 0 天 7	1	植 0 天 1	6	植 0 天 6	・シカの食害 ・母樹や保残木がない。 ・重機による林地の攪乱 ・低木、中木稚樹の存在
0～1 年経過	2	植 1 天 1	0	植 0 天 0	2	植 1 天 1	・伐採後間もないので、50cm 以上の高木性の稚樹が少ない。
計	10	植 1 天 9	1	植 0 天 1	9	植 1 天 8	

※県の天然更新完了基準書に基づいて判定しています。

県の天然更新完了基準書に基づいて判定した結果、更新完了は 1 箇所、未更新箇所は 9 箇所となりました。未更新箇所全てにおいて高木の稚樹が確認でき、今後更新が見込めそうでした。しかしながら、全 10 箇所のうち、更新完了の 1 箇所を含む 7 箇所については、1. シカの食害 2. 笹の侵入 3. 母樹がない 4. 重機による林地の攪乱 などの要因によって、稚樹の成長に影響を及ぼし、森林の再生に時間を要すると思われます。

1. シカの食害については、市内において大変深刻な問題となっていますが、本年度に調査した多くの箇所でもシカの食害は確認されました。特に No. 10 和良町宮代字沢田平、字尾崎平では、昨年度実生が確認されたスギやヒノキの稚樹がなくなっていたり、周辺の樹木にもシカの食害が多く確認されました。

2. NO. 9 高鷲町鷲見字鷲ヶ嶽については、伐採から 19 年経過しています

が、今なお笹が伐採地を覆っている状況で、更新が遅れています。しかしながら、平成 25 年度の調査では、笹の下に広葉樹が確認でき、今回の調査においても高木の広葉樹を多く確認できたことから、森林の再生に期待が持てそうです。

3. 種子散布が可能な範囲ごとに母樹があれば、天然下種更新が可能となり、森林への早期回復につながると考えられますが、今回調査したほとんどの箇所には母樹がなく、森林への再生に時間がかかりそうな箇所がいくつかありました。

4. 重機で林地を踏みつけたところは植生の回復が遅れており、特に No. 3 白鳥町為真曽部知では、その様子が顕著に見受けられました。

■ 特徴的な調査地の紹介

【シカの食害】

N0. 14 和良町宮代字沢田平、字尾崎平は、シカの食害があり、プロット調査では樹高 50cm 以上の高木の稚樹を確認することができませんでした。昨年度、生えていたスギやヒノキの実生は、ほとんどシカに食べられてしまいました。



笹の食害

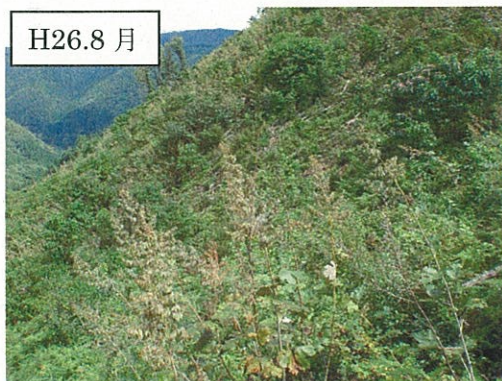
【母樹がない】

N0. 11 明宝奥住字栃本は、母樹がなく、平成 25 年度までは草本類のみが茂るだけでしたが、平成 26 年度より高木性の樹種であるエゴノキが何本か確認されました。これは、伐採地の周辺部に広葉樹があり、そこから種子が散布されたものと思われます。本年度、ここは更新完了となり、森林の再生は可能と思われますが、更新が遅いので、今後も継続調査が必要かと思われます。

H24.11 月



H26.8 月



エゴノキ

【重機による林地の踏みつけ】

No. 3 白鳥町為真曾部知は、重機で林地を踏みつけた跡があり、その箇所については植生の回復が遅れていました。

